

【招待講演】

構文や語彙意味論の分析成果をプログラムとして具現化する言語パターンマッチ

API の可能性

竹内 孔一 (岡山大学)

【概要】本発表では end-to-end を利用できない場合の言語処理のモデリングについて議論し、言語分析の処理への応用を検討する。まずテキストマイニングのような人とシステムが協働して課題を解くタスクを例に、処理システムに理解可能な操作体系や記号体系が必須であることを指摘する。次に広告や質問応答なども同様に操作体系や辞書が整備されている事例を紹介する。操作体系の例として IBM Watson をとりあげ、再帰的な言語パターンマッチを構築することで情報取得する機構を説明する。こうした実システムの成功例を受けて、言語分析に基づく構文や語彙意味論における成果を言語パターンマッチ API としてプログラム化すること(各レベルでの曖昧解消モデルを開発し、集約して操作可能にすること)が研究の発展だけでなく、研究成果が社会に還元されるサイクルを生み出す可能性について述べる。